

常の賣物店は捨置いて、正月の景色略○中破魔弓一挺を、小判二兩などにも買ふ人ありけるは、諸大名の子息に限らず、町人までも萬に大氣なる故ぞかし。

楊弓 吹矢研凶

楊弓ハ、小弓ノ類ニシテ、初ハ楊ヲ以テ造レリト云フ、或ハ云フ、唐玄宗ノ楊貴妃ガ、未央宮ノ楊ヲ截リテ之ヲ造リシニ起レリト、此技ハ、我國ニテハ、應永以後ノ書ニ見エテ、盛ニ宮掖ノ間ニ翫バレ、七夕七遊ノ一タリ、後世專ラ俗間ノ戯トナル、

吹矢バ、矢ヲ筒ニ入レ、口氣ヲ以テ之ヲ吹キ、小鳥等ニ吹キ中ツルモノナリ、

〔運歩色葉集原〕楊弓唐玄宗時楊貴妃始射之、依之曰楊弓也、

〔增補下學集下二〕楊弓器財也、

〔庭訓往來〕春始御祝向貴方先祝申候畢、略○中楊弓、雀小弓勝負、略○中近日打續經營之、

〔庭訓往來抄〕楊弓ハ公卿ノ御弓也、アヅチヲ九ノ杖ニコシラヘテ、廣縁ナドニテ射也、ユンホコハ三尺六寸也、

〔易林本節用集器財也〕楊弓ヤウキョウ

〔楊弓射禮蓬矢抄序〕夫楊弓之濫觴者、貴妃資始之、明皇兼明妃長生私言誓曰、在天願爲比翼鳥、在地願爲連理枝、可謂漆膠交、于造次于顛沛、事勝遊而盡善盡美、於是截未央楊柳削弓、折太液芙蓉爲矢、矢羽嘈々相似比翼鳥、弓弦切々恰如連理枝、古今風流美談也、爾來傳楊弓於吾本朝、以射者多、略○下〔嬉遊笑覽四〕安齋云、楊弓其始をえらす、本は小童の楊の枝を弓に作て、もてあそびとせしより起りたることなどにやといへり、かくいひては、雀弓と異なることなし、按るに、養由基の楊の葉

名稱